

## 初等中等教育分科会（第132回）における主な意見

### 1. 今後の初等中等教育のあり方について

- 同じ年齢の子供たちが、教室という同じ場で一緒に学んでいくという学校のあり方自体を考えるべきではないか。
- 学校のあり方に起因する不登校が、いじめや友人関係に起因するものより多いのは、学校を取り巻く制度に課題があるということではないか。
- 単なる端末の活用ということではなく、従来型の授業のあり方を変えていくためのツールとしてICTを用いるべき。

### 2. 児童生徒が安心して学校生活を過ごせる環境について

- 子供たちのウェルビーイングにつながるような教育が必要であるが、個々人だけでなく、他者との関係性や環境についても考えていくべき。
- 生徒を「指導」するだけでなく、心理面・社会面など様々な観点から「支援」していくという観点が大切。
- 生徒が自らSOSを出すなど、援助を求める力を育てていくべき。
- 心身の不調に陥らないようにするためにどうすべきか、という予防的なアプローチの視点が必要ではないか。

### 3. 様々なニーズのある児童生徒への支援のあり方について

- 不登校児童生徒の3～4割が学校内外で何ら相談・指導等を受けられていない状況であり、何らかの対策が必要。
- 教職員だけが抱え込まないように、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーはもちろん、首長部局・教育委員会・学校が連携していくことが必要。
- 一人一人の力を伸ばすことができるように、ICTの活用や関係機関と連携した支援、自治体による不登校支援センターの設立など、教育条件を整備していくことが急務。
- 日本語指導については、地域によるリソースの格差があるため、ICTの活用や日本語学校との連携などの工夫が必要。